神奈川
KANAGAWA

かながわ元気企業①

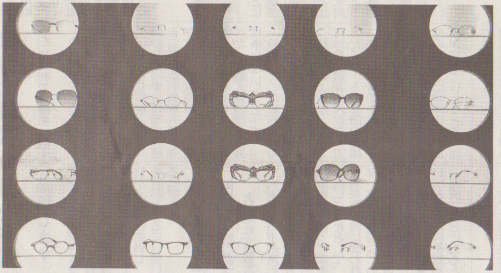
横浜・馬車道「山下眼鏡店」

ソムリエがメガネ選びサポート

馬車道の街角にある「山下眼鏡店」

横浜・馬車道のしゃれた街並みの一角にある「山下眼鏡店」は、メガネの専門家「メガネソムリエ」が、顧客のメガネ選びを手伝うという一風変わったコンセプトで勝負する、昭和31年創業の老舗だ。「メガネソムリエ」とは、メガネに関する豊富な知識や選別のセンスを持つ、メガネ選びのプロフェッショナルを意味するという。

輪郭、骨格、目や鼻の特徴など、客の個性に合ったメガネを瞬時に見いだし、まるでワインのソムリエのように、的確なアドバイスやコーディネートを行う。同店で「メガネソムリエ」を称しているのは、社長の山下修さん(48)だ。



㊤「似合うメガネを瞬時に見つけ出します」と自信を見せる山下修社長
㊧商品の展示も工夫している
＝いずれも横浜市

■焼け野原から

「国内でメガネを販売する業者には、海外のように、国家資格も肩書もない。お客さまに、いかに専門的な知見を持つかを示す指標として『メガネソムリエ』というワードを生み出した」と山下さん。「お似合いのメガネ、欲しているメガネを瞬時に見抜き、ご提示いたします」と自信をのぞかせるさまは、まさに「ソムリエ」そのものだ。

客が自ら気づきにくい魅力も引き出す。山下さんは「本人が普段、手に取らないようなメガネの中からも、きっと似合うものを見つけだします。自信を持ってかけていただき、輝かしい日々を過ごす一助になりたい」と話している。

創業者は、山下さんの祖父の栄さん（故人）だ。戦時中は潜望鏡などのレンズ設計技師として活躍したといい、横浜大空襲（昭和20年5月）を受けて〝焼け野原〟となった馬車道に出店した、米兵向けの土産物を販売する店舗が同店の前身となった。31年、現在地に場所を移し、メガネの専門店として再出発した。その後、父の直敏さん(80)の代を経て、山下さんは平成20年から社長を務めている。

■先細りに危機感

「メガネソムリエ」のコンセプトを打ち出し、旧来のメガネ店からの脱却にかじを切ったのも同時期だ。店舗を改装し、商品の陳列スタイルも大幅に変えた。

「メガネはときに万円単位の高い買い物となる。立たせたまま見ていただくようなものではない」と山下さん。落ち着いて選べるソファや椅子を用意し、高級感のある店内で、「ソムリエ」が解説する中、納得のいく商品を選んでもらうというスタイルを追求し続けている。

同店が取り組む課題は若者層の取り込みだ。顧客名簿を分析し、若者層の希薄さに気づいたのが十数年前。「将来を見据えると、若者層を取り込んでおかなければ、商売が先細るのは明白だ」と危機感を覚えたという。

若者層の取り込みのため、人気俳優が着用するメガネをいち早く入荷するなどの経営努力を欠かさない。山下さんは「〝当たる〟と踏んだ商品を大量に仕入れるなど、1年に1度は大きな賭けに出ています」と胸を張る。そうした前衛的な経営姿勢はテレビ番組などにもたびたび取り上げられ、売り上げを着実に伸ばしてきた。

山下さんは、業界全体の底上げが大切だと考えている。「売り上げの約8割を大手3社が占める。残り2割のパイは、奪い合うのではなく、共存による発展を目指したい」と意気込む。その上で、「メガネ選びの楽しさを伝え、市場の拡大を目指すことで、業界全体の売り上げを伸ばしたい。メガネソムリエのサービスによって、お客さまの記憶に残る店を目指す」と目を輝かせている。

（外崎晃彦、写真も）

◇

県内には、地元に根ざしたモノづくりや豊富なアイデアなどで活力みなぎる企業がたくさん存在する。今年の8月もそんな「かながわ　元気企業」を4社、紹介する。

■山下眼鏡店

▽所在地＝横浜市中区住吉町5の57（045・681・0198）
▽創業＝昭和31年12月1日
▽資本金＝500万円
▽従業員数＝6人（令和2年8月現在）
▽店舗＝横浜・馬車道、東京・秋葉原に各1店
▽事業内容＝眼鏡・コンタクトレンズ・補聴器の販売

横浜総局
〒231−0015
横浜市中区尾上町
6−87−3
電話　045・681・0921（代）
FAX　045・224・6856
yokohama@sankei.co.jp
広告　03・3275・8663
購読申し込み
0120・70・3034
配達・集金
0120・34・4646
紙面・記事
0570・046460
Web
http://www.sankei.com/region/region.html

あすのこよみ

（26日）
旧7月8日
《友引》

月齢……7.0
日出…5：09
日入…18：17
月出…12：54
月入…23：07
満潮…10：58／21：24
干潮…3：59／15：47
小潮……（東京）

産經新聞 THE SANKEI NEWS
「地方」ニュースも発信中！
www.sankei.com/